

# 陸連時報 三

2015  
平成27年

10 月号

題字は平沼亮三(初代陸連会長)の書

## 目 次

|  |     |
|--|-----|
| 第9回世界ユース陸上競技選手権大会報告.....                 | 214 |
| ホクレンディスタンスチャレンジ2015大会報告.....             | 218 |
| 国際陸連レベル1講師養成(レクチャーコース)セミナーに参加して.....     | 219 |
| “日清カップ”第31回全国小学生陸上競技交流大会報告.....          | 220 |
| 安藤財団グローバルチャレンジプロジェクト.....                | 222 |
| 連載企画:世界のジュニア競技者育成② 鉄は熱いうちに打つのがよいのか?..... | 224 |
| 2015数字で見る陸上競技Vol.2 都道府県公認審判員数.....       | 225 |
| 大会観戦ガイド.....                             | 226 |
| 陸協NEWS.....                              | 228 |
| 事務局からのお知らせ.....                          | 230 |

## 公告

「陸連時報」は公益財団法人日本陸上競技連盟定款第4条第6号の「機関誌」の性格を有するものですが、毎月「陸上競技マガジン」と一体として発行しています。陸上競技に関する啓発記事のほか、必要に応じて、評議員会、理事会の決定事項、各専門委員会、事務局からの報告、通達も掲載いたします。本時報に掲載した通達は、公式に通達したものと取扱わせていただきますので、登録競技者は本時報の掲載内容にご注意下さい。また、陸上競技指導者の方は、所属競技者にお知らせ下さるようお願い致します。

公益財団法人日本陸上競技連盟

# 第9回世界ユース陸上競技選手権大会報告

強化育成部委員・U19幹事 大橋 祐二

## 1. 総合成績

金メダル3個、銀メダル1個、銅メダル1個の計5個のメダルを獲得し、メダルテーブルでは第3位と世界トップ

3に入った(表2)。また、プレイングテーブル(1~8位を得点化した国別対抗ポイント)は第5位となり(表3)、いずれも世界ユース選手権史上最高の成績を収める

表1 第9回世界ユース陸上競技選手権(2015/カリ)選手団役員(19名)

大会期間:2015年7月15日~19日 場所:カリ(コロンビア)

| No. | 役職              | 氏名     | 所属                  |
|-----|-----------------|--------|---------------------|
| 1   | 監督              | 山崎 一彦  | 強化副委員長・強化育成部長       |
| 2   | ヘッドコーチ(兼男女短距離)  | 清水 禎宏  | 強化育成副部長・U19ディレクター   |
| 3   | フィールド統括コーチ      | 石井田 茂夫 | 強化育成副部長・U19サブディレクター |
| 4   | 総務              | 大橋 祐二  | 強化育成部委員・U19幹事       |
| 5   | コーチ(男女短距離・ハードル) | 杉井 将彦  | 強化育成副部長・短距離・ハードル主任  |
| 6   | コーチ(男子短距離)      | 山村 貴彦  | 強化育成部委員・短距離・ハードル    |
| 7   | コーチ(女子短距離)      | 青木 早穂子 | 強化育成部委員・短距離・ハードル    |
| 8   | コーチ(女子中長距離)     | 荻原 知紀  | 強化育成副部長・中長距離・競歩主任   |
| 9   | コーチ(男子中長距離)     | 中山 隆   | 強化育成部委員・中・長距離/競歩    |
| 10  | コーチ(競歩)         | 塚田 美和子 | 強化育成部委員・中・長距離/競歩    |
| 11  | コーチ(跳躍)         | 渡邊 容史  | 強化育成部委員・跳躍          |
| 12  | コーチ(跳躍)         | 平井 勇気  | 強化育成部委員・跳躍          |
| 13  | コーチ(投擲)         | 永井 啓太  | 強化育成部委員・投擲          |
| 14  | コーチ(投擲)         | 松井 江美  | 強化育成部委員・投擲          |
| 15  | ドクター            | 鎌田 浩史  | 医事委員会委員             |
| 16  | ドクター            | 塚原 由佳  | 医事委員会委員             |
| 17  | トレーナー           | 松尾 信之介 | 医事委員会トレーナー部 委員      |
| 18  | トレーナー           | 宮澤 那緒  | 医事委員会トレーナー部員        |
| 19  | 渉外              | 河合 江梨子 | 日本陸連事務局事業部          |

## 男子(22名)

| No. | 種目        | 氏名               | 所属               |
|-----|-----------|------------------|------------------|
| 1   | 100m/200m | サニブラウン アプデル・ハキーム | 城西大学附属城西高校(東京)   |
| 2   | 100m      | 宮本 大輔            | 洛南高校(京都)         |
| 3   | 200m      | 田村 紀樹            | 下関商業高校(山口)       |
| 4   | 400m      | 佐々木 愛斗           | 盛岡南高校(岩手)        |
| 5   | 400m      | 北原 涼太            | 東海大学付属静岡翔洋高校(静岡) |
| 6   | 800m      | 花村 拓人            | 東高校(大阪)          |
| 7   | 800m      | 田母神 一喜           | 石川高校(福島)         |
| 8   | 1500m     | 横川 巧             | 中之条高校(群馬)        |
| 9   | 3000m     | 遠藤 日向            | 石川高校(福島)         |
| 10  | 3000m     | 神林 勇太            | 九州学院高校(熊本)       |
| 11  | 400mH     | 豊田 将樹            | 洛南高校(京都)         |
| 12  | 400mH     | 藤井 琉成            | 小倉工業高校(福岡)       |
| 13  | 2000mSC   | 西田 壮志            | 九州学院高校(熊本)       |
| 14  | 10000m競歩  | 森田 靖             | 興國高校(大阪)         |
| 15  | 10000m競歩  | 上田 俊希            | 宇和島東高校(愛媛)       |
| 16  | 棒高跳       | 江島 雅紀            | 荻田高校(神奈川)        |
| 17  | 棒高跳       | 吉田 賢明            | 観音寺中央高校(香川)      |
| 18  | 走高跳       | 三浦 剛             | 伊奈学園総合高校(埼玉)     |
| 19  | 走幅跳       | 津波 響樹            | 那覇西高校(沖縄)        |
| 20  | 走幅跳       | 宮内 勝史            | 酒田西高校(山形)        |
| 21  | 三段跳       | 小林 慎弥            | 菅高校(神奈川)         |
| 22  | やり投       | 長沼 元             | 高田高校(岩手)         |

## 女子(19名)

| No. | 種目      | 氏名       | 所属            |
|-----|---------|----------|---------------|
| 1   | 100m    | 山田 美来    | 盛岡誠桜高校(岩手)    |
| 2   | 200m    | 斎藤 愛美    | 倉敷中央高校(岡山)    |
| 3   | 400m    | 青木 りん    | 相洋高校(神奈川)     |
| 4   | 800m    | 福田 翔子    | 松江北高校(島根)     |
| 5   | 1500m   | 樺沢 和佳奈   | 常磐高校(群馬)      |
| 6   | 1500m   | 向井 智香    | 至学館高校(愛知)     |
| 7   | 3000m   | 嵯峨山 佳菜未  | 大阪薫英女学院高校(大阪) |
| 8   | 3000m   | 向井 優香    | 世羅高校(広島)      |
| 9   | 100mH   | 田中 佑美    | 関西大学第一高校(大阪)  |
| 10  | 400mH   | 村上 瑞季    | 東大阪大学敬愛高校(大阪) |
| 11  | 400mH   | 北澤 千紗    | 西城陽高校(京都)     |
| 12  | 2000mSC | 柴田 佑希    | 北九州市立高校(福岡)   |
| 13  | 5000m競歩 | 矢来 舞香    | 西宮高校(兵庫)      |
| 14  | 5000m競歩 | 林 優花子    | 八幡浜高校(愛媛)     |
| 15  | 走幅跳     | 杉村 奏笑    | 千葉黎明高校(千葉)    |
| 16  | 走幅跳     | 竹内 真弥    | 摂津高校(大阪)      |
| 17  | やり投     | 北口 桜花    | 北海道旭川東高校(北海道) |
| 18  | やり投     | 岡林 つぐみ   | 大阪高校(大阪)      |
| 19  | 七種競技    | シュレスト マヤ | 東大阪大学敬愛高校(大阪) |

ことができた。

全選手の結果を自己記録に対する達成率でみると、男子は97.7±2.9%、女子は97.7±2.2%であり、本大会で自己記録を更新した選手は、男子3名、女子1名（国内と規格が異なる種目は対象外）であった。サニブラウン アブデル・ハキーム選手の100m、200m二冠や北口榛花選手の女子投擲史上初の金メダルを筆頭に上述した総合成績は過去最高ではあったが、諸外国に比べると本大会で自己記録を更新する選手が少ない印象を受けた。風やトラックの形状など日本国内の競技会の条件が整っていることもあるが、初めての国際大会に萎縮している選手もいた。2020年東京オリンピックでは、日本国内で開催されるとはいえ、大会の規模や雰囲気から「東京が東京でなくなる」ことが考えられる。今後は国際大会でこそ力を発揮できる選手育成が課題となるであろう。

また、本大会ではエントリーした選手全員が出場し、競技中に大きな故障に見舞われる選手もいなかった。これには、医事委員会の協力を得て2月の強化育成部研修合宿からドクター・トレーナーによる研修を行ったこと、更にはコーチングスタッフがパーソナルコーチとの連絡を密に

し、選手のコンディションを十分に把握していたことが大きく影響しているであろう。このことが史上最高の成績を後押ししたことは間違いない。

## 2. 選手選考

選手選考会議は、高校総体ブロック地区予選が全ての地区で終了した後に行われた。事前に強化育成部が提示した派遣設定記録（過去8大会の入賞記録から作成）とIAAFが公表している参加標準記録、更には「2020東京オリンピック」を意識した選考ポリシーに照らし合わせ選考を行った。特筆すべきは、参加標準記録を突破している種目については、全種目派遣したことである。記録から考えればラウンドを重ねられないことも十分考えられたが、国際大会での経験を積ませることも強化育成部のポリシーの一つである。そのため、派遣選手数も過去最高となっている（表4）。また、帰国後すぐに高校総体が控えているため、選考に入る前に選考対象となりうる選手には出場意思を確認した。開催地（コロンビア・カリ）の治安の問題もあったが、多くの指導者に国際大会派遣の意義を理解していただき、国内最高峰の大会となる高校総体の直前でありながら、快く選手を送り出していただいた。この場を借りて感謝申し上げます。

表2 メダルテーブル（上位10ヶ国）

| 順位 | 国名     | 金 | 銀 | 銅 | 合計 |
|----|--------|---|---|---|----|
| 1  | 米国     | 8 | 5 | 6 | 19 |
| 2  | ケニア    | 5 | 4 | 4 | 13 |
| 3  | 日本     | 3 | 1 | 1 | 5  |
| 4  | エチオピア  | 2 | 3 | 3 | 8  |
| 5  | 南アフリカ  | 2 | 2 | 1 | 5  |
| 6  | スウェーデン | 2 | 1 | 1 | 4  |
| 7  | ドイツ    | 2 | 1 | 0 | 3  |
| 7  | ロシア    | 2 | 1 | 0 | 3  |
| 9  | キューバ   | 2 | 0 | 2 | 4  |
| 10 | 中国     | 1 | 5 | 1 | 7  |

## 3. 現地の環境

### 1) 生活環境

本大会は、Olimpico Pascual Guerrero Stadium（コロンビア・カリ）で開催された。地理的に日本の真裏に位置するコロンビアへの移動は2日を要し、時差は-14時間と海外遠征が初めての選手には過酷なものであった。気温は日中35℃近くまで上がったが、標高が約1000mあり湿度

表3 プレイシングテーブル（上位10ヶ国）

| 順位 | 国名    | 1位 | 2位 | 3位 | 4位 | 5位 | 6位 | 7位 | 8位 | 合計  |
|----|-------|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|
| 1  | 米国    | 8  | 5  | 6  | 1  | 3  | 2  | 1  | 3  | 163 |
| 2  | ケニア   | 5  | 4  | 4  | 0  | 2  | 0  | 0  | 0  | 100 |
| 3  | エチオピア | 2  | 3  | 3  | 5  | 2  | 0  | 1  | 0  | 90  |
| 4  | 中国    | 1  | 5  | 1  | 1  | 1  | 2  | 3  | 2  | 72  |
| 5  | 日本    | 3  | 1  | 1  | 0  | 3  | 4  | 4  | 2  | 71  |
| 6  | 英国    | 0  | 0  | 3  | 4  | 1  | 6  | 1  | 1  | 63  |
| 7  | 南アフリカ | 2  | 2  | 1  | 1  | 3  | 1  | 3  | 0  | 62  |
| 8  | フランス  | 1  | 1  | 1  | 4  | 1  | 1  | 4  | 1  | 57  |
| 9  | ドイツ   | 2  | 1  | 0  | 2  | 0  | 3  | 3  | 3  | 51  |
| 9  | キューバ  | 2  | 0  | 2  | 1  | 2  | 1  | 2  | 3  | 51  |

表4 世界ユース選手権における日本選手入賞数および代表選手数の変遷

|     | 開催日            | 開催都市         | 金 | 銀 | 銅 | 入賞者 | 代表選手数 |
|-----|----------------|--------------|---|---|---|-----|-------|
| 第1回 | 1999年7月16日～18日 | ポーランド・ビドゴシチ  | 0 | 1 | 2 | 12  | 31    |
| 第2回 | 2001年7月12日～15日 | ハンガリー・デブレセン  | 0 | 0 | 2 | 16  | 33    |
| 第3回 | 2003年7月9日～13日  | カナダ・シャープルック  | 1 | 1 | 4 | 15  | 32    |
| 第4回 | 2005年7月13日～17日 | モロッコ・マラケシュ   | 0 | 1 | 3 | 14  | 35    |
| 第5回 | 2007年7月11日～15日 | チェコ・オストラバ    | 1 | 3 | 0 | 14  | 33    |
| 第6回 | 2009年7月8日～12日  | イタリア・ブレッサノーネ | 0 | 0 | 1 | 13  | 29    |
| 第7回 | 2011年7月6日～10日  | フランス・リレー     | 0 | 2 | 1 | 13  | 35    |
| 第8回 | 2013年7月10日～14日 | ウクライナ・ドネツク   | 1 | 1 | 2 | 19  | 35    |
| 第9回 | 2015年7月15日～19日 | コロンビア・カリ     | 3 | 1 | 1 | 18  | 41    |

表5 第9回世界ユース陸上競技選手権大会 (2015/カリ) 日本選手団 競技結果

PB: 自己新記録 CR: 大会新記録

■は当該ラウンドがないことを示す

| No.           | 競技種目         | 氏名                   | 所属             | 自己ベスト   | 達成率%              | 予選                       | 準決勝                     | 決勝                         |
|---------------|--------------|----------------------|----------------|---------|-------------------|--------------------------|-------------------------|----------------------------|
| 1             | 100m         | サニフアン                | 城西大学附属城西高等学校   | 10.30   | 100.2             | 10.30 (-0.1) 1組1着 準決勝進出  | 10.30 (-1.2) 2組1着 決勝進出  | 10.28 (-0.4) 1位 金メダル PB CR |
|               | 200m         | アデルハキム               |                | 20.56   | 101.1             | 21.19 (-1.0) 5組1着 準決勝進出  | 20.62 (-1.7) 1組1着 決勝進出  | 20.34 (-0.4) 1位 金メダル PB CR |
| 2             | 100m         | 宮本 大輔                | 洛南高等学校         | 10.50   | 99.8              | 10.61 (-0.2) 5組2着 準決勝進出  | 10.52 (-0.2) 1組2着 決勝進出  | 10.78 (-0.4) 7位入賞          |
| 3             | 200m         | 田村 紀樹                | 下関商業高等学校       | 21.12   | 98.9              | 21.60 (+0.5) 6組2着 準決勝進出  | 21.35 (-1.0) 3組4着 落選    |                            |
| 4             | 400m         | 佐々木愛斗                | 岩手県立盛岡南高等学校    | 47.21   | 100.8             | 47.27 2組3着 準決勝進出         | 46.85 1組4着 PB 決勝進出      | 47.54 8位入賞                 |
| 5             | 400m         | 北原 涼太                | 東海大学付属静岡翔洋高等学校 | 47.40   | 99.4              | 47.69 3組3着 準決勝進出         | 47.85 2組4着 落選           |                            |
| 6             | 800m         | 田母神一善                | 学校法人石川高等学校     | 1:51.78 | 101.2             | 1:51.89 3組2着 準決勝進出       | 1:50.31 1組2着 PB 決勝進出    | 1:52.58 7位入賞               |
| 7             | 800m         | 花村 拓人                | 大阪市立東高等学校      | 1:51.15 | 98.2              | 1:53.17 5組4着 準決勝進出       | 1:57.69 2組7着 落選         |                            |
| 8             | 1500m        | 横川 巧                 | 群馬県立中之条高等学校    | 3:48.74 | 92.3              | 4:07.87 2組11着 落選         |                         |                            |
| 9             | 3000m        | 遠藤 日向                | 学校法人石川高等学校     | 8:17.22 | 98.2              | 8:26.59 2組3着 決勝進出        |                         | 8:26.96 5位入賞               |
| 10            | 3000m        | 神林 勇太                | 九州学院高等学校       | 8:17.84 | 98.5              | 8:25.58 1組3着 決勝進出        |                         | 8:29.75 7位入賞               |
| 11            | 400mH(84.0m) | 藤井 琉成                | 福岡県立小倉工業学校     | 51.42   | —                 | 50.87 2組1着 準決勝進出         | 51.21 2組1着 決勝進出         | 50.33 2位 銀メダル              |
| 12            | 400mH(84.0m) | 豊田 将樹                | 洛南高等学校         | 50.83   | —                 | 52.87 5組2着 準決勝進出         | 50.72 1組1着 決勝進出         | 50.53 3位 銅メダル              |
| 13            | 2000mSC      | 西田 壮志                | 九州学院高等学校       | 5:58.10 | 99.7              | 5:59.06 1組9着 落選          |                         |                            |
| 14            | 10000mW      | 上田 俊希                | 愛媛県立宇和島高等学校    | 42.05   | 96.6              |                          |                         | 43:34.83 5位入賞              |
| 15            | 10000mW      | 森田 颯                 | 興國高等学校         | 41.58   | 90.2              |                          |                         | 46:31.43 18位               |
| 16            | 棒高跳          | 江島 雅紀                | 神奈川県立荏田高等学校    | 5.32    | 94.0              | 4.95 B組3位 決勝進出           |                         | 5.00 6位入賞                  |
| 17            | 棒高跳          | 吉田 賢明                | 香川県立観音寺中央高等学校  | 5.11    | 96.9              | 4.95 A組6位 決勝進出           |                         | 4.85 8位入賞                  |
| 18            | 走高跳          | 三浦 剛                 | 埼玉県立伊奈学園総合高等学校 | 2.08    | 96.2              | 2.00 A組12位 落選            |                         |                            |
| 19            | 走高跳          | 宮内 勝史                | 山形県立酒田西高等学校    | 7.53    | 98.3              | 7.40 (+1.0) B組5位 決勝進出    |                         | 6.85(-0.3) 12位             |
| 20            | 走高跳          | 津波 響樹                | 沖縄県立那覇西高等学校    | 7.55    | 96.7              | 7.30 (+0.1) A組7位 落選      |                         |                            |
| 21            | 三段跳          | 小林 慎弥                | 神奈川県立菅高等学校     | 15.38   | 96.6              | 14.85 (+0.4) B組10位 落選    |                         |                            |
| 22            | やり投          | 長沼 元                 | 岩手県立高田高等学校     | 67.97   | —                 | 65.96 B組11位 落選           |                         |                            |
| 23            | 100m         | 山田 美来                | 盛岡誠桜高等学校       | 11.90   | 96.6              | 12.32 (-0.9) 6組6着 落選     |                         |                            |
| 24            | 200m         | 斎藤 愛美                | 岡山県立倉敷中央高等学校   | 24.17   | 99.1              | 24.44 (-0.9) 7組3着 準決勝進出  | 24.38 (+0.1) 2組6着 落選    |                            |
| 25            | 400m         | 青木 りん                | 相洋高等学校         | 54.80   | 98.4              | 55.72 1組3着 準決勝進出         | 55.69 1組7着 落選           |                            |
| 26            | 800m         | 福田 翔子                | 島根県立松江北高等学校    | 2:07.78 | 97.7              | 2:10.79 2組5着 落選          |                         |                            |
| 27            | 1500m        | 向井 智希                | 至学館高等学校        | 4:20.78 | 100.1             | 4:20.59 2組4着 PB 決勝進出     |                         | 4:21.59 6位入賞               |
| 28            | 1500m        | 樺沢和佳奈                | 常盤高等学校         | 4:20.61 | 95.8              | 4:32.13 1組3着 決勝進出        |                         | 4:32.50 12位                |
| 29            | 3000m        | 向井 優希                | 広島県立世羅高等学校     | 9:04.81 | 97.1              |                          |                         | 9:21.04 5位入賞               |
| 30            | 3000m        | 嵯峨山佳菜未               | 大阪薫英女学院高等学校    | 9:11.27 | 96.1              |                          |                         | 9:33.85 6位入賞               |
| 31            | 100mH(76.2m) | 田中 佑美                | 関西大学第一高等学校     | 13.74   | —                 | 13.92 (-1.4) 3組5着 準決勝進出  | 13.64 (-0.6) 2組5着 落選    |                            |
| 32            | 400mH        | 村上 瑞季                | 東大阪大学敬愛高等学校    | 59.23   | 99.8              | 1:00.06 4組3着 準決勝進出       | 59.35 1組6着 落選           |                            |
| 33            | 400mH        | 北澤 千紗                | 京都府立西城陽高等学校    | 1:00.21 | 98.9              | 1:00.86 1組4着 準決勝進出       | 1:11.08 2組8着 落選         |                            |
| 34            | 2000m SC     | 柴田 佑希                | 北九州市立高等学校      | 6:47.90 | 99.9              | 6:56.60 2組4着 決勝進出        |                         | 6:48.41 7位入賞               |
| 35            | 5000mW       | 矢来 舞香                | 兵庫県立西宮高校       | 23.20   | 98.1              |                          |                         | 23:46.47 10位               |
| 36            | 5000mW       | 林 優子                 | 愛媛県立八幡浜高等学校    | 23:24   | 92.2              |                          |                         | 25:22.47 26位               |
| 37            | 走高跳          | 竹内 真弥                | 大阪府立摂津高等学校     | 6.08    | 99.8              | 6.07 (+0.8) B組3位 決勝進出    |                         | 5.89 (-0.3) 11位            |
| 38            | 走高跳          | 杉村 奏笑                | 千葉黎明高等学校       | 6.16    | 95.5              | 5.88 (+0.4) A組6位 落選      |                         |                            |
| 39            | やり投(500g)    | 北口 椋花                | 北海道旭川東高等学校     | 55.99   | —                 | 52.15 A組4位 決勝進出          |                         | 60.35 1位 金メダル              |
| 40            | やり投(500g)    | 岡林つくみ                | 大阪高等学校         | 50.74   | —                 | 47.64 B組8位 落選            |                         |                            |
| 41            | 七種           | ジュレスタ                | 東大阪大学敬愛高等学校    | 5141    | —                 | 100mH 13.90 (-0.6) 993pt | 200m 26.08 (-1.5) 790pt | 800m 2:20.87 812pt         |
|               |              | まや                   |                |         |                   | HJ 1.67 818pt            | LJ 5.21 (-0.4) 617pt    | TOTAL 5327pt 15位           |
|               |              |                      |                |         |                   | SP 11.58 633pt           | JT 39.82 664pt          |                            |
| 4x400mR mixed | 出場オーダー       | 北原涼太ー青木りんー村上瑞希ー佐々木愛斗 | —              | —       | 3:24.76 3組1着 決勝進出 |                          | 3:25.01 6位入賞            |                            |

が低い、高温多湿の日本に比べると過ごしやすい気候であった。治安については、外務省ホームページの渡航情報によると「渡航の是非を検討してください」という地域に入っているため、決して良いとは言えない。しかし、国を挙げて大会を成功させようとする姿勢が強く見られ、メインスタジアムやサブトラックへの選手の輸送は警察官が先導、サブトラックにも警察官が常駐しており、今回の遠征では一度も危険な場面に出くわすことはなかった。

宿舎は、競技場からバスで約30分のホテルを使用した。日本の他には、フランス、ロシア、バハマ、オーストリアなどが宿泊していた。宿舎には英語のできるボランティアスタッフがおり、食事の時間変更やミーティングルームの確保など円滑に行うことができた。食事は三食ともにビュッフェ形式であり、海外での食事としては申し分ないものであった。しかし、海外遠征が初めての選手は、毎日代わり映えない食事に苦勞している場面も見受けられた。また、ホテルにはWi-Fi環境も整っており、ストレスなく過ごすことができた。ホテル周辺の治安は良いと言われていたものの、夜になると安全とは言い難い地域であったため、選手・スタッフともに1人での外出は禁止、外出は2人以上で隣接するスーパーマーケットのみに限定した。安全面を考え致し方ない部分ではあったが、選手には多少のストレスになったかもしれない。

練習はメインスタジアムから約1km離れたサブトラ

ックで行われた。サブトラック行きのバスは、午前2便、午後2便と非常に少なかったが、ボランティアスタッフが日本チーム専用のバスを用意してくれたり、バスの出発時間を調整してくれたり、その柔軟な対応に助けられた。

## 2) 競技環境

メインスタジアムのサーフェイスは、世界大会で多く用いられているMONDO社のスーパー Xであった。大会前日に行われたスタジアムツアーでサーフェイスを確認した日本選手の中には、初めて見るトラックの素材に戸惑う者もいた。また、サブトラックのサーフェイスはチップ式のものであり、サブトラックとメインスタジアムの反発の違いを気にする選手もいた。

サブトラックからメインスタジアムまでの距離は約1kmあり、大会規則には1次コールはないとされていたものの、実質サブトラックからメインスタジアムまでのバスに乗ることが1次コールとなっていた。メインスタジアム入口で最終コールを行い、その後はほとんど身体を動かすことができない状況での入場となった。日本の招集方法とは大きく異なるため、緊張を助長させた選手も多かったであろう。また、今大会からの新しい試みで、トラック種目に出場する選手は3000m障害の水豪あたりの入口から、ユニフォーム、スパイクを着用した状態でスタート地点までジョギングをしての入場となった。最初は違和感があり、スタート前に集中しきれないのではと心配したが、トラ

クの8レーンをジョギングしてくることで観客からの歓声や拍手を浴び、気持ちが昂っている選手が多かったように感じた。

#### 4. 戦力分析

##### 1) 入賞の質的变化

本大会では、上述したようにメダルテーブル、プレイングテーブルともに史上最高成績を収めた。しかし、入賞者数に限ってみれば、前回大会よりも減少している(表4)。これらのことは、本大会では上位入賞者が増加したこと、すなわち入賞の「質」が向上したことを示している。その主な要因は、ダイヤモンドアスリートであるサニブラウン アブデル・ハキーム選手と北口榛花選手がともに金メダルを獲得したこと、日本のお家芸ともいえる男子400mHで2つのメダルを獲得したこと、更にはユースカテゴリーにおいてもアフリカ勢の強さが際立っている中長距離種目において、その牙城を崩そうとチャレンジした男女3000mで5位入賞できたことが大きい(1種目につき各国2名エントリーをすることを考えれば、ケニア・エチオピアがいる中長距離種目で4位以内に入ることは容易ではない)。この質的变化は、「世界大会に出場する」から「世界大会で戦う」という意識改革に繋がり、東京オリンピックに向け明るい材料と言えよう。

##### 2) 他国の状況

特に短距離種目は、男女ともに過去7大会と比較して非常に高いレベルであったと言える。優勝記録はさることながら、6位入賞のタイムもかなり高いレベルであった。短距離種目において標高が約1000mあることは多少有利に働くであろうが、種目によっては昨年の世界ジュニア選手権に近いレベルでもあり、来年の世界ジュニア選手権(ロシア・カザン)で戦うためには、ユースからジュニアへのスムーズな移行に加え、将来性を踏まえた上での強化が必要であろう。

#### 5. 今後の課題

##### 1) ユース規格の検討

以前から指摘されているが、IAAFが定めるユースカテゴリーの種目規格と日本が行っているものは大きく異なっている。主に、ハードル種目の高さ、投擲種目の重さ、長距離種目の距離である。日本国内でも世界ユース選手権の認知度が高まってきたため、今大会からは参加標準記録突破が期待される種目については、春季グランプリ等で特別に選考会を実施していただいた。しかし、投擲種目の多くは、強化育成のために選出したくても資格記録がなく選出できない状況にある。近年は、全国高校選抜や日本ユース選手権でユースカテゴリーの種目規格に合わせる動きがみられるが、ユース世代に国際

大会を経験させるためには、早急にこの課題を解決する必要がある。

##### 2) 女子選手の活躍に期待

入賞者数は「18」と前回大会に次ぐ結果であったが、その内訳は男子12、女子5、男女混合リレー1と、活躍の目立った男子に比べ女子はかなり厳しい状況であった。これは全てのカテゴリーに共通する課題ではあるが、まずは低年齢の世界大会である世界ユース選手権で成績を出すことは打開策の一つになるであろう。

また、日本が過去7個のメダルを獲得しているスウェーデンリレーが本大会から廃止され、新たに男女混合4×400mRが採用された。男女混合となると、海外選手と力の差が大きい女子選手の走りが結果を大きく左右する。今後、このリレーが継続して実施される場合には強化策が必要だと感じた。

#### 6. 最後に

本大会では、昨年の世界ジュニア選手権に続き、日本チームの活躍が世界に大きなインパクトを与えた。海外のマスコミもサニブラウン アブデル・ハキーム選手の活躍をはじめ、日本チームがなぜ強いのか興味津々であった。この3年間でユース、ジュニアカテゴリーでは世界の強豪の仲間入りができたと行って良いだろう。以前は、選手だけでなく私たち指導者も「世界に行っても勝てない」といった先入観を自然と植えつけられていた。しかしながら、近年のユース、ジュニアカテゴリーの活躍により「世界は甘くはないが手の届くところにある」といった気持ちが選手に浸透しているように感じる。これには、一時のパフォーマンスの上下動に目を眩り、長期的な視野から選手により大きな舞台を経験させることの重要性を感じる指導者が多くなったことが大きく影響している。また、若い選手が東京オリンピックでの活躍を夢見て世界を意識し始めたことが好成績の要因であることは間違いない。このような情報を発信し続けてくれた強化育成部の方々や、ご協力いただいた指導者に深く感謝したい。



JAPAN SPORT  
COUNCIL  
日本スポーツ振興センター

# ホクレン・ディスタンスチャレンジ2015大会報告

強化委員会幹事 吉川 三男

今年も、この北海道の地で、7月5日(日)～7月16日(木)の日程で長距離選手達の祭典となるホクレン・ディスタンスチャレンジが開催された。

第1戦となる士別大会では、日本陸上競技選手権(以下、日本選手権)3000mSCで優勝した高見澤安珠選手(松山大)が1500mで優勝。男子1500mでも、高校生の田母神一喜選手(学法石川高)が、3分47秒63と好記録を出した。日本選手権の翌週開催という事もあり、参加選手が例年より少ない印象を受けたが、メインの男子5000mでは、宇賀地強選手(コニカミノルタ)が日本人1位の13分39秒01、アジア大会マラソン銀メダリストの松村康平選手(MHPS長崎)が13分50秒05と続いた。今大会では、優勝選手のインタビューも地元の中学生在が務め、また、メインレースの前には小中高生の士別ディスタンス大会も開催され、地域一体となった大会となり大変な盛り上がりを見せた。

第2戦深川大会では、女子10000mで宮崎悠香選手(九電工)が32分07秒43、続いて田中智美選手(第一生命)が32分08秒74。日本人上位2名が、リオデジャネイロオリンピック参加標準記録(32分15秒00)を突破。女子3000mは地元、ホクレンの清水美穂選手が9分15秒02で優勝。男子5000mは、士別大会に続き、宇賀地強選手(コニカミノルタ)が13分44秒46で優勝と気を吐いた。ここ深川市は、深川牛ふかがわボークが名産で、日本新記録更新で深川産の牛肉1頭分がプレゼントされる予定であったが、惜しくも日本記録は生まれなかった。次回の好走に期待したい。

第3戦北見大会では開会式の前にキッズダンスショーと高校生によるプラスバンドの演奏が行われ、大会を盛り上げてくれた。男子1500mでは、服部弾馬選手(東洋大)が、3分42秒06で優勝。女子1500mでは、高松 望ムセンビ選手(薫英女学院高)が4分17秒89で優勝と、共に学生が社会人選手を抑える健闘を見せた。本大会では、女子5000mで鷺見梓沙選手(ユニバーサルエンターテイメント)が、北京世界選手権参加標準記録(15分20秒00)を突破。男子3000mSCでも、ペースメーカーを付け世界選手権参加標準記録(9分28秒00)を狙ったが、惜しくも突破することはできなかった。また、北見大会では、北海道で合宿をする世界選手権出場予定の選手を含む競歩ブロックの選手達が出場し男子5000m競歩で鈴木

雄介選手(富士通)が18分37秒22、続く高橋英輝選手(富士通)が18分37秒60と日本記録を更新し、また、北見大会と網走大会では、韓日交流事業の一環として、韓国選手団と日本選手団の選抜選手が出場した。

最終戦となる第4戦網走大会は、2015年大会最多となる478人が出場し、気温18度のコンディションのなか、男子800mでは、韓国のLEE, MOOYONG選手(韓国・高陽市庁)選手が1分50秒63で優勝、男子1500mでも、PARK, DAESEONG選手(韓国・麗水市庁)が3分52秒20で優勝し、ともに韓国選手団を盛り立てた。男子10000mでは、小野裕幸選手(日清食品グループ)27分57秒85、横手健選手(明治大)が27分58秒40と2名の選手がリオデジャネイロオリンピック参加標準記録(28分00秒00)を突破。女子10000mでは、松崎璃子選手(積水化学)が31分44秒86、萩原歩美選手(ユニクロ)31分46秒58、小原怜選手(天満屋)31分48秒31、光延友希選手(デンソー)31分56秒92と4名の選手が、リオデジャネイロオリンピック参加標準記録(32分15秒00)を突破。女子10000m競歩では、世界選手権出場予定の岡田久美子選手(ビックカメラ)43分26秒13で優勝。男子10000m競歩では、鈴木雄介選手(富士通)が北見大会に続き優勝。38分10秒23と日本記録を更新するとともにアジア最高記録を更新した。最終戦では、優勝者インタビューに網走市役所の方が快く引き受けていただき、加えて日本代表選手のサイン色紙抽選会を実施するなど、最後まで盛り上がった大会となりました。

最後に、ご協賛頂いているホクレンをはじめ、本大会を準備・実行していただきました各自自治体の皆様及び応援・サポート頂きました各大会地域の方々にお礼申し上げます。



第4戦網走大会10000m競歩で日本記録を樹立した鈴木雄介選手

# 国際陸連レベル1講師養成(レクチャーコース)セミナーに参加して

普及育成委員会 指導者育成部委員 下山良成

6月21日より26日までの6日間、北京体育大学に本拠地を置くIAAF地域開発センター(通称RDC北京)で、CECSレベルIコーチの講師を養成する講習会(レクチャーコース)が行われた。

アジア地区のRDCの拠点は、東アジア地区は北京、西アジア地区はジャカルタにあり、今回は東アジア地区のモンゴル・日本・北朝鮮・中華台北・ラオス・ベトナム・香港・マカオ・そして地元中国からは各地区から集められた指導者候補生18名で講習会が行われた。

現在、IAAF規格のコーチ資格は、5段階に分かれており、レベルIからVまで、ユースコーチ、クラブコーチ、コーチ、シニアコーチ、アカデミーコーチとクラスが分かれている。それぞれのコーチに対する育成指導者がレクチャーとなる。

今回はレベルI(キッズから中学生までの指導者)に国際規格の指導法を教え込む人々を養成する講習会であった。

講義は全て中国語で行われ、海外からの受講者には通訳がつき、同時通訳された。

6日間で行われた内容は以下の通りである。

## 1. 受講内容

### ○理論講習

理論講習では全てユース世代に必要なとされる指導育成の考え方や、方法論、タレント発掘、タレント育成、子ども達の心理、指導者としての心構えの講義を行った。

### ○実技講習

キッズからユースの時期に大切となる体幹作りの運動をはじめとして、スピード養成、リハビリテーション、競技会の実施方法などの研修を行った。

### ○グループワーク・プレゼンテーション

4~5人のグループ分けをし、課題についてまとめをし、受講生の前で発表をした。

### ○テスト

レクチャーコースのまとめとして3つのテストを行った。全て4段階で評価をされ、全てのテストで一定の基準をクリアしないとレクチャーの資格を与えられず、今回が二度目という受講者も少なくなかった。

#### ア) 実技指導のテスト(20~30分)

講師が事前に選んだ競技種目(専門とする種目以外)について事前に指導案を作成し提出する。その内容に従って、各国の受講者に生徒の役をしてもらい、教師として実技指導を行って、子どもへの話の仕方、指導の仕方、わかりやすさなどといった観点から評価された。

イ) プレゼンテーション能力(講義の能力)のテスト(15分)  
実技テスト同様に事前に専門種目以外の種目について、その競技の理論について、全員の前でプレゼンテーションをし、話しの仕方や言葉のやりとり、説明のわかりや

すなどが評価された。

#### ウ) 筆記テスト

中国語と英語で書かれた問題を、通訳を介して解いていくテストを行った。問題は40問で、陸上競技の各種目についての特性から、講義で行ってきた理論について広い範囲が出題され、4ないし5つの解答から答えを選ぶ形式で、どれも正しい答えに近く、選択に苦慮する内容であった。

## 2. 日程(6月21日~26日)

1日目 開講式……自己紹介・IAAFコーチ資格の説明・受講内容の説明

理論講習…選手の発育発達・“Y”世代の特徴・総合的な成長・タレント育成の構造モデル・高い競技力を育てる課程のマネジメント

2日目 実技講習…スタビライゼーション・スピード向上のトレーニング・グループワーク(ジュニアのスピード養成プログラム)

理論講習…トレーニングの原理・IAAFの推進する12-15歳の競技会・タレント発掘とその育成

3日目 実技講習…IAAF年代別テストの講習

理論講習…トレーニングの原則・いかにスピードを養成するか・いかに持久力を養成するか・中長距離の持久力・グループワーク(ジュニア中距離選手の有酸素トレーニング)

4日目 理論講習…若い選手の成長と成熟・ハイレベル選手育成プロセスのマネジメント

実技講習…リハビリテーション運動

理論講習…コーチの目・パワーの育成

5日目 テスト(実技指導)

…リレー競技を実施(残りのテストは生徒役テスト(筆記テスト))

6日目 テスト(プレゼンテーション能力テスト)

…三段跳のプレゼンテーションを実施  
結果報告・反省会・閉講式・夕食会

今回、日本陸連に研修の機会を与えて頂き、また、職場の方々には肩を押して頂き、陸上競技の指導者として自らを振り返る良いチャンスをいただいた事に深く感謝いたしたい。改めて、周囲の方々に支えて頂いて生きていることを実感できたことも付け加えたい。

今回、学んだ内容について若い方々にどう伝えていくかが、自分自身の課題であり、責務であると感じている。厳しい日程の中、多くの国の指導者と交流が持て、実になる研修となった。



# “日清カップ” 第31回全国小学生陸上競技交流大会報告

普及育成委員会 熊原 誠一

日清食品カップ第31回全国小学生陸上競技交流大会は、47都道府県代表の小学生競技者1029名および指導者を集め、平成27年8月21日（金）より8月22日（土）までの2日間の日程で、横浜市・日産スタジアムを主会場とし、新横浜プリンスホテル・新横浜国際ホテルを選手村として、研修会・競技会を開催いたしました。“日清食品カップ” 第31回全国小学生陸上競技交流大会の概略を下記の通り報告いたします。

## 第1日目（8月21日・金曜日）

～前日フリー練習会・指導者研修会・監督会議～

第27回大会より日産スタジアムを主会場とし、さらに第28回大会より安藤百福発明記念館（愛称：カップスノーランドミュージアム）見学を研修としたことにより、競技場到着選手団から順次前日フリー練習として、主競技場で100m・80mH・跳躍、補助競技場でフリースロー、投てき練習場でソフトボール投のフリー練習会を行いました。

今年度でフリー練習会も4回目となり、順調に前日練習が行われました。今年は猛暑日が多く、熱中症の心配をしていましたが、台風の影響もあり、曇り空で時々小雨がぱらつくといった、過ごしやすい陽気となり、体調を崩す選手もなく、11時30分から17時30分まで予定通りに実施することが出来ました。

練習会的一方、各選手団2名の指導者に参加していただき、15時30分から16時30分まで指導者研修会を実施いたしました。今回は広島県の広島ジュニアオリンピッククラブ監督 藤本法生 氏に講演をお願いいたしました。

広島ジュニアオリンピッククラブの立ち上げから活動目的・内容、指導方針などお話しいただきました。特に、発達段階に応じたトレーニングの質と量を適切にし、故障者を出さない指導を心掛けていることや陸上競技だけではなく、いろいろな行事や活動・表彰などを通してクラブに参加する楽しさを与えるような工夫をされていること、そして「夢はでっかくオリンピック」と長く将来を見据えた指導をされていると言うことが、多くのトップアスリート（為末大・徳本一善・岡山沙英子・新宮美歩・山縣亮太）を育成しているポイントではないかと思われました。

最後に、今大会プレゼンターの山縣亮太選手が、藤本氏の質問に答えるという形で、小学生時代からオリンピック出場までの経験を率直に、そして来年のリオ五輪への抱負を熱く話してくれました。指導者研修会後の16時45分より監督会議が行われ、競技運営上の諸注意や開会式などの連絡確認が行われ、17時30分過ぎに監督会議が終了し、1日目の全日程を終えることが出来ました。

## 第2日目（8月22日・土曜日）

～開会式・指導者表彰・競技会・表彰式～

昨年に引き続き今年度もマラソンゲート側から8都道府県ごとにまとまった入場行進を行いました。

整列の後、主催者を代表して公益財団法人日本陸上競技連盟 尾縣貢専務理事による開会の挨拶、後援・協賛者を代表されて公益財団法人安藤スポーツ・食文化振興財団理事長であり日清食品ホールディングス株式会社代表取締役社長・CEO 安藤宏基様より

表1 決勝記録一覧表（GR：大会新）

（男子）

| 月/日  | 種目      | 風速   | 1位   |             | 2位  |             | 3位   |                       | 4位   |             |
|------|---------|------|--|-------------|---|-------------|--|-----------------------|--|-------------|
|      |         |      | 氏名/所属  | 記録          | 氏名/所属   | 記録          | 氏名/所属  | 記録                    | 氏名/所属  | 記録          |
| 8/22 | 5年男子    | +0.7 | 山田 楓河 (5)<br>北海道・美幌RC                                    | 12.91       | 本村 克臣 (5)<br>長崎・口之津JAC                                      | 13.20       | 清水 壮 (5)<br>神奈川県・馬場陸上クラブ                                   | 13.31                 | 佐々木 翼 (5)<br>秋田・西馬音内T&F                                      | 13.46       |
| 8/22 | 6年男子    | -1.4 | 森 聖弥 (6)<br>兵庫・龍野小                                       | 11.90       | 小山 智也 (6)<br>新潟・柏崎T&F                                       | 12.20       | 西吉 葵汰 (6)<br>宮崎・高鍋陸上                                       | 12.22                 | 光畑 星輝 (6)<br>岡山・常盤AC   | 12.28       |
| 8/22 | 男子      | +1.7 | 町井 大城 (6)<br>北海道・TEAM北斗浜分                                | 11.84       | 藤田 晃輝 (6)<br>三重・一志Beast                                     | 12.17       | 中井 康輝 (6)<br>愛知・なごや陸上クラブ                                   | 12.36                 | 山村 息吹 (6)<br>宮崎・宮崎西陸上  | 12.43       |
| 8/22 | 走高跳     |      | 村岡 翼 (6)<br>兵庫・豊富小                                       | 1.48        | 齋藤 龍揮 (6)<br>茨城・養蚕小学校                                       | 1.45        | 榎原 駿太 (6)<br>堺 圭秀 (6)                                      | 三 重・保々RC<br>埼玉・上尾ジュニア |  | 1.45        |
| 8/22 | 走幅跳     |      | 森 遼介 (6)<br>兵庫・北五葉NAC                                    | 5.58 (+1.5) | 金城 広 (6)<br>沖 縄・あわせJRC                                      | 5.25 (-1.0) | 伊藤 司騎 (6)<br>長野・望月AC                                       | 5.11 (-0.8)           | 森井 健心 (6)<br>和歌山・和陸クラブ                                       | 5.06 (-0.8) |
| 8/22 | ソフトボール投 |      | 与那城 琉斗 (6)<br>沖 縄・伊江スポーツ小                                | 82.34       | 坂 玲哉 (6)<br>滋 賀・伴谷小学校                                       | 78.44       | 笹倉 世風 (6)<br>岩 手・水泉小学校                                     | 77.82                 | 吉岡 裕希 (6)<br>富 山・石動  | 75.69       |
| 8/22 | 4×100m  |      | 愛知・TSM<br>高橋 隼人 (6) / 小幡 岳人 (6)<br>濱田 晃成 (6) / 桂木 大和 (6) | 49.84       | 鳥 取・布勢TC<br>小林 朝日 (6) / 山口 大凱 (6)<br>山田 遼太郎 (6) / 岡崎 凌大 (6) | 50.48       | 埼玉・春日部陸友<br>長田 昂己 (6) / 山崎 颯太 (6)<br>山家 和文 (6) / 岩浪 巧実 (6) | 50.52                 | 大 阪・ひらかたKSC<br>陶 康平 (6) / 日高 義仁 (6)<br>中畑 瑠朗 (6) / 甲斐 陽太 (6) | 50.62       |

（女子）

| 月/日  | 種目      | 風速   | 1位   |             | 2位   |             | 3位   |             | 4位   |             |
|------|---------|------|--|-------------|--|-------------|--|-------------|--|-------------|
|      |         |      | 氏名/所属  | 記録          | 氏名/所属  | 記録          | 氏名/所属  | 記録          | 氏名/所属  | 記録          |
| 8/22 | 5年女子    | -0.2 | 土居 幸愛 (5)<br>愛知・岡崎JAC  | 13.42       | 多田 愛望 (5)<br>京 都・京小陸                                     | 13.56       | 吉島 ゆい (5)<br>兵庫・高砂小  | 13.81       | 柘澤 里奈 (5)<br>岩 手・盛岡KTC   | 13.95       |
| 8/22 | 6年女子    | +0.7 | 綿貫 真尋 (6)<br>埼玉・新座陸協   | 12.85       | 大谷 くるる (6)<br>東 京・府中AC                                   | 12.98       | 山本 記子 (6)<br>静 岡・掛川陸上                                      | 12.98       | 寺本 葵 (6)<br>兵 庫・八幡小  | 13.02       |
| 8/22 | 女子      | +1.1 | 清水 美京 (6)<br>鳥 取・布勢TC  | 12.25       | 神田 彩名 (6)<br>愛知・TSM                                      | 12.54       | 岡田 結愛 (6)<br>北海道・室蘭陸上少年団                                   | 12.63       | 荒木 珠里愛 (6)<br>新 潟・アルビレックスRC                                    | 12.66       |
| 8/22 | 走高跳     |      | 尾崎 千里 (6)<br>鳥 根・浜田JAS                                       | 1.38        | 脇田 聖果 (6)<br>愛知・TSM                                      | 1.38        | 竹田 高嶺 (6)<br>三 重・石薬師RC                                     | 1.35        | 石田 知穂 (6)<br>滋 賀・守山陸上教室  | 1.35        |
| 8/22 | 走幅跳     |      | 岡田 麻奈 (6)<br>広 島・高須子ども会                                      | 4.91 (-0.5) | 星野 美月 (6)<br>北海道・旭川神居東小                                  | 4.82 (-0.1) | 西尾 悠子 (6)<br>埼玉・上尾受ジュニア                                    | 4.73 (+0.1) | 土井 架和 (6)<br>愛 媛・川之江T&Fクラブ                                     | 4.69 (-0.1) |
| 8/22 | ソフトボール投 |      | 本城 咲良 (6)<br>岩 手・前沢小学校                                       | 66.00       | 芦田 菜紀 (6)<br>京 都・桂東ランナーズ                                 | 58.95       | 奥山 琴未 (5)<br>岡山・平島小学校                                      | 58.92       | 上野 美海 (6)<br>千 葉・豊浜小学校   | 58.52       |
| 8/22 | 4×100m  |      | 愛知・岡崎JAC<br>澤田 幸奈 (6) / 北田 野々花 (5)<br>土居 心愛 (6) / 藤原 古都羽 (6) | 51.65       | 埼玉・しらこぼと<br>鈴木 風子 (6) / 土田 涼夏 (6)<br>寺岡 華 (6) / 栗屋 滯 (6) | 51.75       | 栃 木・TOJ<br>折戸 莉乃 (6) / 伏木 ひより (6)<br>佐藤 友佳 (6) / 葎葉 暁心 (6) | 52.29       | 北海道・十勝陸上クラブ<br>上妻 心葵 (6) / 千葉 悠莉 (6)<br>荒井 のん乃 (6) / 今村 心桜 (6) | 52.44       |

友好上位記録一覧表

| 月/日  | 種目   | 風速 | 1位                     |            | 2位                       |            | 3位                         |                        | 4位                        |            |
|------|------|----|------------------------|------------|--------------------------|------------|----------------------------|------------------------|---------------------------|------------|
|      |      |    | 氏名/所属                  | 記録         | 氏名/所属                    | 記録         | 氏名/所属                      | 記録                     | 氏名/所属                     | 記録         |
| 8/22 | 友好男子 |    | 渡辺 流空 (6)<br>栃 木・佐野SAC | 13.56 +1.3 | 富永 拓斗 (6)<br>大 阪・ひらかたKSC | 13.65 +1.3 | 矢澤 賢治朗 (6)<br>神奈川県・船橋賀賀リトル | 13.67 +1.0             | 呉屋 晴飛 (5)<br>沖 縄・沖縄アンテローブ | 13.68 +1.0 |
| 8/22 | 友好女子 |    | 山本 美潤 (6)<br>千 葉・SAA   | 14.04 +0.3 | 金子 萌生 (6)<br>埼玉・しらこぼと    | 14.13 +1.0 | 船木 咲来 (6)<br>尾崎 結福 (6)     | 秋 田・JAC-A<br>新 潟・上越はね馬 | 14.28 +0.3<br>14.28 +0.3  |            |



ご挨拶をいただきました。引き続き、文部科学大臣祝辞を文部科学省スポーツ・青少年局体育参事官付教科調査官 高田彬成様、横浜市市長祝辞を横浜市副市長 柏崎誠様により代読していただきました。

繁田進普及育成委員会委員長登壇後、石川県代表の山下大輝君と又多紅樹さんが元気よく選手宣誓を行いました。最後に日清食品グループ陸上競技部の皆さんの紹介を行い、閉式通告後、北海道選手団から順に退場して開会式を終えました。

開会式に引き続き、小学生陸上競技の普及発展に貢献されました指導者の皆さんに対して、「安藤百福記念章」の授与式が行われ、各都道府県陸上競技協会より推薦された47名の受賞者に対して、日本陸上競技連盟 尾縣貢専務理事から表彰状、公益財団法人安藤スポーツ・食文化振興財団理事長・日清食品ホールディングス株式会社代表取締役社長・CEO 安藤宏基様から記念盾が授与されました。

表彰終了後の9時30分に友好女子100mがスタートし、競技が開始されました。天候は昨日と異なり、日が照りつけて暑い一日となりました。

競技は予定通りに進行し、予選・準決勝・決勝と熱戦が続き、各種目の表彰式ではプレゼンターとして、佐藤悠基選手(日清食品グループ)、山縣亮太選手(セイコーホールディングス)、桐生祥秀選手(東洋大)が各種目入賞者に賞状・メダル・トロフィーを授与してくれました。

今回の競技結果では、昨年5年男子100mに12秒70で優勝した森聖弥君(兵庫)が、6年男子100mを11秒90(-1.4m)の大会新記録で制し、5・6年男子100mを連覇したことが注目されました。

競技につきましては、8月29日(土)15時から16時30分まで、録画ではありますが、Eテレで放映されました。また、全競技結果につきましては、日本陸上競技連盟ホームページにてご覧下さい。

来年度第32回大会以降も、本大会開催の基本理念(交流・研修を

中心に考える)を踏まえながら、指導者の皆様のご意見等を検討し、改善させてまいりたいと考えております。今後とも本大会に対するご理解ならびにご協力をお願い申し上げます。

最後に、ご後援いただきました文部科学省、横浜市、公益財団法人安藤スポーツ・食文化振興財団、公益財団法人日本体育協会日本スポーツ少年団、読売新聞社、ご協賛いただきました日清食品ホールディングス株式会社、ご協力いただきましたアシックスジャパン株式会社、株式会社ニシ・スポーツ、ミズノ株式会社をはじめ多くの関係各団体・各位に対し、心から感謝申し上げます、第31回全国小学生陸上競技交流大会の報告といたします。

謝辞

第31回全国小学生陸上競技交流大会の開催に当たり、主管いただきました一般財団法人神奈川陸上競技協会役員・競技役員の皆様、補助員として協力頂きました東京学芸大学・東京女子体育大学・日本女子体育大学・桐蔭横浜大学の皆様に対し、心から厚くお礼申し上げます。



今年もたくさんの熱いレースが見られた

| 5位  |                             | 6位  |                         | 7位   |                                    | 8位  |                             |
|---|-----------------------------|---|-------------------------|--|------------------------------------|---|-----------------------------|
| 氏名/所属   | 記録                          | 氏名/所属   | 記録                      | 氏名/所属  | 記録                                 | 氏名/所属   | 記録                          |
| 石田 大河 (5)<br>愛知・AC一宮  | 13.48                       | 松下 翔 (5)<br>熊本・本渡北クラブ                                       | 13.56                   | 井元 楓 (5)<br>大分・滝尾陸上クラブ                                       | 13.57                              | 佐藤 己朗 (5)<br>福島・福島大学TC                                      | 13.73                       |
| 山下 侑牙 (6)<br>愛知・岡崎JAC   | 12.41                       | 大越 隆聖 (6)<br>北海道・北教大附属函館                                    | 12.41                   | 若槻 猛 (6)<br>岩手・前沢小学校   | 12.43                              | 山本 翼 (6)<br>香川・大野原小   | 12.44                       |
| 漆畑 亮我 (6)<br>静岡・千代田AC   | 12.51                       | 原 稜介 (6)<br>大阪・ひらかたKSC                                      | 12.62                   | 加邊 直哉 (6)<br>群馬・吾妻榛嶺クラブ                                      | 12.65                              | 今西 一輝 (6)<br>奈良・香芝RC  | 12.81                       |
| 中島 凌 (6)<br>阿見 凜人 (6)   | 北海道・新札幌陸上クラブ<br>栃木・那須塩原Jr陸上 | 1.45  | 篠原 敬太 (6)<br>群馬・吾妻榛嶺クラブ | 1.40   | 鎌倉 凜太 (6)<br>水崎 翔 (6)<br>横内 秀太 (6) | 千葉・習志野JRC<br>新潟・アルビレックスRC<br>香川・豊浜                          | 1.40<br>1.40<br>4.92 (-2.0) |
| 本村 孝太 (6)<br>熊本・荒尾JAC   | 5.05 (-1.3)                 | 藤平 隼人 (6)<br>栃木・TOJ   | 4.98 (0.0)              | 上村 耕志郎 (6)<br>愛知・豊橋陸上クラブ                                     | 4.96 (-0.6)                        | 町屋 慶明 (6)<br>青森・天間西陸上                                       | 4.92 (-2.0)                 |
| 秋葉 光大 (6)<br>山形・鈴川アスリート                                       | 75.58                       | 道下 隼翔 (6)<br>石川・石崎クラブ                                       | 73.79                   | 泉 周良 (6)<br>奈良・鴻池陸上  | 71.55                              | 松原 大和 (6)<br>青森・風間浦クラブ                                      | 71.47                       |
| 岡山・岡山市ジュニア陸<br>伊藤 孝太 (6) / 小坂 琉星 (6)<br>山本 壮海 (6) / 久葉 誠矢 (6) | 51.24                       | 広島・CHASKI<br>米澤 晴雅 (6) / 谷口 朝陽 (6)<br>恵南 優貴 (6) / 坂田 陽貴 (6) | 51.35                   | 千葉・船橋陸上クラブ<br>網代 康汰 (6) / 鈴木 京悟 (6)<br>阿部 竜希 (6) / 下川 泰知 (6) | 51.43                              | 新潟・上越はね馬<br>根津 諒大 (5) / 瀧本 悠一朗 (6)<br>北峰 輝久 (6) / 木原 大介 (6) | 51.85<br>51.85<br>51.85     |

| 5位  |             | 6位   |                       | 7位  |                        | 8位   |                     |
|---|-------------|--|-----------------------|---|------------------------|--|---------------------|
| 氏名/所属   | 記録          | 氏名/所属  | 記録                    | 氏名/所属   | 記録                     | 氏名/所属  | 記録                  |
| 世古 綾葉 (5)<br>三重・神社小学校                                       | 14.00       | 花田 真奈夏 (5)<br>鹿児島・国分Jr陸上                                   | 14.00                 | 関田 結穂 (5)<br>東京・武蔵野東AC  | 14.01                  | 澤村 愛花 (5)<br>北海道・中士幌小学校                                  | 14.06               |
| 波江野 夏帆 (6)<br>大阪・なにわJAC                                     | 13.05       | 郷右近 美優 (6)<br>宮城・利府ジュニア                                    | 13.17                 | 鈴木舞瑠乃 (6)<br>千葉・みちるAC   | 13.24                  | 脇坂 里桜 (6)<br>広島・中野東陸上                                    | 13.29               |
| 又多 紅樹 (6)<br>石川・金沢市陸上教室                                     | 12.68       | 野田 菜々香 (6)<br>静岡・中伊豆AC                                     | 12.71                 | ウヅエロ・サラ (6)<br>埼玉・上尾ジュニア  | 12.91                  | 塘 ありあ (6)<br>千葉・江戸川台小学校                                  | 13.03               |
| 水谷 心都 (6)<br>埼玉・T.A.P                                       | 1.35        | 星野 美瑛 (6)<br>岩崎 萌 (6)                                      | 千葉・クレンサAC<br>長崎・中里クラブ | 1.35  | 長峰 瑠那 (6)<br>中野 佑紀 (6) | 青森・いずみクラブ<br>新潟・アルビレックスRC                                | 1.30<br>4.53 (-1.1) |
| 松本 百音 (6)<br>兵庫・神崎小   | 4.56 (-0.5) | 山尾 美来 (6)<br>島根・浜田JAS                                      | 4.54 (-0.4)           | 萩原 けい奈 (6)<br>山梨・山梨ジャンパーズ                                       | 4.53 (+0.1)            | 倉上 世蘭 (6)<br>栃木・東光                                       | 4.53 (-1.1)         |
| 成瀬 叶望 (6)<br>石川・門前西小学校                                      | 58.19       | 松本 渚 (6)<br>三重・度会エンペラーズ                                    | 57.85                 | 齋藤 瑞希 (6)<br>福島・森合  | 56.30                  | 安食 沙南 (6)<br>島根・松江陸上教室                                   | 56.18               |
| 岩手・盛岡KTC<br>吉田 朱里 (6) / 春日 美月 (6)<br>柴田 佳歩 (6) / 菅原 さくら (6) | 52.62       | 静岡・浜松河輪AC<br>加藤 涼子 (6) / 瀧美 万於 (6)<br>藤野 萌 (6) / 鈴木 葉羽 (6) | 53.18                 | 山形・SRKジュニアクラブ<br>佐藤 朱莉 (6) / 伊藤 咲穂 (6)<br>齋藤 結海 (6) / 小松 優衣 (6) | 53.30                  | 鳥取・TF米子<br>松崎 瑠奈 (6) / 田村 倫子 (5)<br>細田 葵生 (6) / 角 良子 (6) | 53.42               |

| 5位                      |            | 6位                       |            | 7位                       |                     | 8位                       |                          |
|-------------------------|------------|--------------------------|------------|--------------------------|---------------------|--------------------------|--------------------------|
| 氏名/所属                   | 記録         | 氏名/所属                    | 記録         | 氏名/所属                    | 記録                  | 氏名/所属                    | 記録                       |
| 川上 翔也 (6)<br>島根・出雲陸上教室  | 13.85 +1.3 | 北村 嘉得 (6)<br>岡山・岡山市ジュニア陸 | 13.86 +1.7 | 上松 万真 (6)<br>大分・大分中央陸上   | 13.94 +0.8          | 小田 琉世 (6)<br>福島・植田AC     | 13.94 +0.8               |
| 黒木 彩花 (6)<br>滋賀・長浜市陸上教室 | 14.40 +1.0 | 蒲野 なつみ (6)<br>愛知・岡崎JAC   | 14.46 +0.3 | 利根川 心暉 (6)<br>柳家 あずみ (6) | 東京・府中AC<br>富山・富山JAC | 14.56 -0.1<br>14.56 +1.0 | 14.56 -0.1<br>14.56 +1.0 |

# 「安藤財団グローバルチャレンジプロジェクト」 ～2020年へ向けた若手アスリートの海外挑戦支援～

## 安藤財団グローバルチャレンジプロジェクトとは？

### 【概要】

公益財団法人安藤スポーツ・食文化振興財団と日本陸上競技連盟は、将来国際大会でメダル獲得を志す陸上競技の若手アスリートの海外挑戦を支援するプロジェクトを本年より新たに発足しました。本プロジェクトを通じて、トップアスリートとして求められる資質を身につけ、将来のメダリストの誕生を目指します。

### 【本プロジェクトの特徴】

本プロジェクトは選手自身の希望を最大限尊重し、選手自身で海外挑戦の内容を決め、現地と調整し、計画を立て、費用を積算していただき、プロジェクトの選考委員会にて最終的な支援内容・金額を決定します。

## 長期活動支援対象者第一号に戸邊直人選手が決定

2015年7月31日（金）長期活動支援の対象者に、戸邊 直人（とべ なおと）選手が決定しました。

|         |  |
|---------|--|
| 支援コース   | 長期活動支援   |
| 対象者     | 戸邊 直人（とべ なおと） 23歳  |
| 種目      | 走高跳  |
| 主な実績    | 2010年世界ジュニア 銅メダル<br>2015年世界選手権 日本代表 ※世界ランキング最高12位（2014年2m31）   |
| 支援期間    | 2015年8月～2016年3月（※支援内容及び支援期間は、年度ごとの更新となります。）  |
| 支援決定の理由 | 「2020年東京オリンピックで金メダル獲得」という目標達成に向けて、欧州にトレーニング拠点を設け、海外のトップ選手の集団に入り、彼らとともにダイヤモンドリーグ等の海外ツアーを転戦することでステップアップしていきたい、という同選手の希望と本プロジェクトの主旨が合致したため。 |
| 支援内容    | 海外トレーニング拠点の設置費用、海外大会転戦費用等  |
| 主な活動拠点  | タリン（エストニア）   |

### 【戸邊選手コメント】

今までは海外へ行っても常時活動できる場所がない状況であったが、今回の支援を受けてエストニアに拠点を設け、トレーニングや試合経験を積んでより高いレベルで活動し、2020年東京オリンピックで金メダルの獲得を目指したい。

### 【山崎2020年東京オリンピックプロジェクトチームディレクターコメント】

2020年東京オリンピックでは、競技力に限らず国際感覚を持った選手として活躍して欲しいと考えている。戸邊選手を筆頭に本制度を利用してより多くの選手が海外に挑戦して欲しい。



戸邊直人選手



左から山崎一彦ディレクター、戸邊直人選手、安藤宏基理事長、安藤徳隆副理事長

# 安藤財団グローバルチャレンジプロジェクト 短期・長期活動支援募集のお知らせ

|                    |   |
|--------------------|---|
| 支援コース              | 短期活動支援  |
| 支援期間               | 2015年12月1日から2016年3月31日  |
| 支援内容               | 支援期間内で約1か月から3か月の海外挑戦費用<br>旅費、宿泊費、滞在費、コーチフィー、大会エントリーフィー等   |
| 海外挑戦の例             | 海外の大学やクラブチームでの合宿など  |
| 支援コース              | 長期活動支援  |
| 支援期間               | 2016年4月1日から2017年3月31日   |
| 支援内容               | 旅費、宿泊費、滞在費、コーチフィー、大会エントリーフィー等   |
| 海外挑戦の例             | 海外に拠点を置いたトレーニングの実施や大会の転戦など  |
| 選考の流れ<br>(短期・長期共通) | <p>応募資格</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 満16歳以上（応募時）の男女個人</li> <li>2. 将来、オリンピックや世界選手権等の国際大会でメダル獲得を志す者</li> <li>3. 日本国籍を有する者</li> <li>4. 実業団に所属していない者</li> </ol> <p>応募期間 9月14日（月）～11月15日（日）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①1次エントリー 9月14日（月）～10月31日（土）<br/>安藤スポーツ・食文化振興財団HPよりお申込みください。<br/>(<a href="http://www.ando-zaidan.jp/">http://www.ando-zaidan.jp/</a>)</li> <li>②申請書の提出 11月15日（日）まで<br/>1次エントリー後、本プロジェクト事務局より申請書をメールにてお送りします。</li> <li>③本プロジェクト選考委員会による選考（書類）11月末～12月上旬<br/>※面談による選考の可能性もございます。</li> <li>④対象者の発表 12月上旬</li> </ol> |

## ※注意事項

- ・対象者は安藤スポーツ・食文化振興財団の広報活動に協力して頂きます。
- ・申請書類に記載された個人情報のうち、採用者氏名・所属・写真、チャレンジ概要や成果報告内容等については、財団の印刷物やウェブサイトを介して公開させていただきます。
- ・募集内容については変更になる場合がございます。

## 【公益財団法人安藤スポーツ・食文化振興財団について】

公益財団法人安藤スポーツ・食文化振興財団は、日清食品創業者の安藤百福氏が、1983年、私財を提供して設立されました。「走ることはあらゆるスポーツの原点である」という当連盟の考えに、安藤百福氏が賛同し、1985年から「日清食品カップ」全国小学生陸上競技交流大会」、1999年から「日清食品カップ」全国小学生クロスカントリーリレー研修大会」にご後援頂いております。本プロジェクト実施により、陸上競技の裾野の拡大から、トップレベルの選手育成までより広範囲に渡り陸上競技の発展にご支援いただくこととなります。

## 国際陸上競技連盟（IAAF）役員等の選挙について（ご報告）

2015年8月19日（水）、中国・北京での国際陸上競技連盟（IAAF）総会にて実施されましたカウンシルメンバーの選挙におきまして、本連盟の横川浩会長がカウンシルメンバーとして当選いたしました。

これまで2007年から2期IAAFカウンシルメンバーを務めてきた本連盟の田中克之前国際委員長に代わり横川浩会長が本連盟を代表して立候補いたしました。

また、各委員会の選挙も同時に行われ、技術委員会委員に本連盟事務局事業部の関幸生国際専任部長、競歩委員会委員に本連盟強化委員会の今村文男競歩部長が再選されました。

※国際陸上競技連盟（IAAF）総会について、詳細は次号に掲載予定です。

# 連載企画：世界のジュニア競技者育成② 鉄は熱いうちに打つのがよいのか？

普及育成委員会普及政策部長 伊藤 静夫

チャンピオンアスリートの卓越した能力は突然育つものではない。長期的展望に立った系統的育成が重要になる。したがって各国とも、とりわけ次代をなうジュニア競技者の育成を重視し、さまざまな育成システムを工夫してきた。1970～80年代、ソ連、東ドイツをはじめ旧東欧社会主義国において、国家主導によるジュニア育成システムが確立されていったのもその典型事例であった。若年期において優れた素質を見極めるタレント発掘方法が開発され、その才能を長期にわたり一貫して育成しようとしたのである。この育成システムを一言で表現するなら、「単一種目による早期専門化モデル」と言えよう。

その後、このシステムに科学的根拠を与えたのがアメリカの心理学者アンダーズ・エリクソンである。エリクソンは、スポーツに限らず、科学、芸術、ビジネスなど幅広い分野にわたって、世界一流に到達した人たちの経歴をしらべた結果から、世界一流に達するには10年あるいは1万時間以上の練習が必要であると論じた。

この早期専門化のモデルは、当時の東欧諸国のめざましい活躍もあって成功モデルとしての評価が定着し、旧東欧社会崩壊後においても形を変えて各国に継承され今日に至っている。「鉄は熱いうちに打て」と言われるような心情は、わが国においても古くから根付いており、近年とくに青少年のスポーツ指導においてこの特性が顕著にあらわれているように思われる。

しかしながら、この旧東欧社会の育成システムに対する科学的評価が行われるようになったのは、実は比較的最近のことなのである。その分析結果みると、せっかく才能を見出されたジュニア競技者であっても途中でドロップアウトしたものが多く、システムへの投資効果としてはむしろ低いという。さらに、早期専門化の弊害も種々指摘される(この点については別の機会に論じたい)。現在、エリクソンの10年1万時間の理論に対する見直しも始まり、早期専門化

の弊害という立場から批判的な議論もさかんになってきた。

## 陸上競技は専門化の遅い競技

ここで、陸上競技の特性に注目すると、わけても陸上競技は専門化の遅い競技なのである。図1は、2004年アテネオリンピック参加選手および過去のオリンピック・世界選手権に出場した陸上日本代表選手について、その種目に専門化したときの年齢を示したものである。多くの競技は7歳から12歳の小学校期に専門化しているのに対し、陸上競技は13歳、14歳の中学校期に専門化している。陸上競技はオリンピック種目のなかにあって典型的に専門化の遅い競技であることがわかる。多くは中学校から本格的に陸上競技を始め、小学校から専門的に打ち込む選手は少ない。エリクソンの10年1万時間の法則は、少なくとも陸上競技には当てはまらない。

このことを如実に示した研究が最近報告されており、興味深い。1936年から今日までのオリンピック陸上競技100m、200mの金メダリスト男女15人について、その競技歴を調べたものである。表1には、彼らが専門的に陸上競技を始めてから国際級レベルに到達するまでの年数を示した。平均3年半で国際級選手に育ち、10歳台でオリンピックに出場した選手もめずらしくない。競技者育成モデルを考えると、こうしたエリート選手にみられる特徴は大いに参考になる。陸上競技で専門化する至適な年齢は中学校期以降と捉えておくことが妥当であり、専門化をあえて小学校段階に早める積極的な理由はない。育成期間は長ければよいというものではない。むしろ、小学校段階は専門化する前段階として、発育特性に応じた配慮が是非必要になるだろう。今回は、そのあたりのことについて考えてみたい。

表1 オリンピック100、200m金メダリストが国際級選手に育つまでの到達年数

| 名前                 | 性別 | 国籍    | オリンピック |                        | 達成年数* |
|--------------------|----|-------|--------|------------------------|-------|
|                    |    |       | 年      | 種目                     |       |
| ジェシー・オーエンス         | M  | アメリカ  | 1936   | 100m,200m              | 4     |
| ヘレン・ステューヴンス        | F  | アメリカ  | 1936   | 100m                   | 3     |
| ウィルマ・ルドルフ          | F  | アメリカ  | 1960   | 100m,200m              | 2     |
| ボブ・ヘイズ             | M  | アメリカ  | 1964   | 100m                   | 2     |
| ワイオミア・タイアス         | F  | アメリカ  | 1964   | 100m                   | 7     |
| トミー・スミス            | M  | アメリカ  | 1968   | 200m                   | 3     |
| エベリン・アシュフォード       | F  | アメリカ  | 1984   | 100m                   | 1     |
| フローレンス・グリフィス＝ジョイナー | F  | アメリカ  | 1988   | 100m,200m              | 2     |
| カール・ルイス            | M  | アメリカ  | 1984   | 100m                   | NA    |
|                    |    |       | 1988   | 100m,200m              |       |
| ベン・ジョンソン           | M  | カナダ   | 1988   | 100m <sup>#</sup>      | 3     |
| ゲイル・ディバース          | F  | アメリカ  | 1992   | 100m                   | 6     |
|                    |    |       | 1996   | 100m                   |       |
| グウェン・トーレンス         | F  | アメリカ  | 1992   | 200m                   | 7     |
| マイケル・ジョンソン         | M  | アメリカ  | 1996   | 200m                   | 5     |
| マリオン・ジョーンズ         | F  | アメリカ  | 2000   | 100m,200m <sup>#</sup> | 1     |
| ウサイン・ボルト           | M  | ジャマイカ | 2008   | 100m,200m              | 4     |
|                    |    |       | 2012   | 100m,200m              |       |

\* 陸上競技を専門的に始めてから国際レベルへ到達するまでの年数  
# ドーピングにより失格  
NA 不明  
(Lombardo MP : Peer J, 2014)

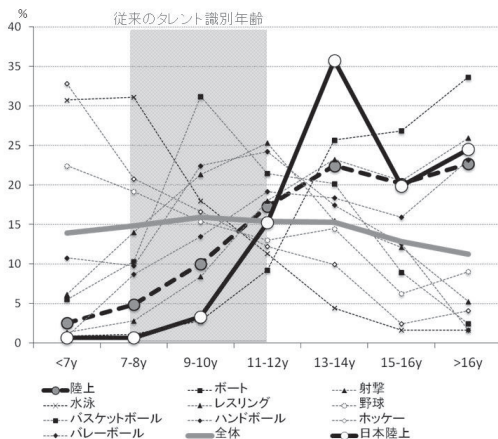


図1 2004年オリンピック大会参加競技者 (n=4,455, Vaeyens R:J Sports Sci,2009) および日本陸上オリンピック、世界選手権代表選手(n=151)の専門種目を開始した年齢

# 2015数字で見る陸上競技Vol.2 都道府県公認審判員数

事務局

シリーズ「2015数字で見る陸上競技」の連載第2弾。

Vol.2では、各都道府県陸上競技協会における2014年度公認審判員の登録人数を掲載します。

2014年12月31日現在

| NO | 陸協名 | S級    |     | A級    |     | B級     |       | 小計     |       | 合計     |
|----|-----|-------|-----|-------|-----|--------|-------|--------|-------|--------|
|    |     | 男     | 女   | 男     | 女   | 男      | 女     | 男      | 女     |        |
| 1  | 北海道 | 190   | 14  | 267   | 30  | 723    | 179   | 1,180  | 223   | 1,403  |
| 2  | 青森  | 75    | 2   | 96    | 5   | 381    | 81    | 552    | 88    | 640    |
| 3  | 岩手  | 85    | 1   | 114   | 18  | 402    | 47    | 601    | 66    | 667    |
| 4  | 宮城  | 94    | 6   | 160   | 31  | 394    | 94    | 648    | 131   | 779    |
| 5  | 秋田  | 99    | 0   | 119   | 8   | 476    | 57    | 694    | 65    | 759    |
| 6  | 山形  | 89    | 0   | 152   | 12  | 448    | 105   | 689    | 117   | 806    |
| 7  | 福島  | 115   | 5   | 279   | 27  | 324    | 95    | 718    | 127   | 845    |
| 8  | 茨城  | 71    | 3   | 149   | 15  | 323    | 67    | 543    | 85    | 628    |
| 9  | 栃木  | 53    | 2   | 86    | 5   | 167    | 40    | 306    | 47    | 353    |
| 10 | 群馬  | 77    | 1   | 105   | 5   | 546    | 84    | 728    | 90    | 818    |
| 11 | 埼玉  | 82    | 0   | 345   | 46  | 328    | 72    | 755    | 118   | 873    |
| 12 | 千葉  | 93    | 3   | 242   | 20  | 751    | 145   | 1,086  | 168   | 1,254  |
| 13 | 東京  | 386   | 37  | 402   | 87  | 400    | 135   | 1,188  | 259   | 1,447  |
| 14 | 神奈川 | 211   | 1   | 281   | 21  | 1,019  | 214   | 1,511  | 236   | 1,747  |
| 15 | 山梨  | 94    | 4   | 136   | 24  | 323    | 88    | 553    | 116   | 669    |
| 16 | 新潟  | 78    | 0   | 160   | 5   | 771    | 134   | 1,009  | 139   | 1,148  |
| 17 | 富山  | 87    | 3   | 160   | 12  | 209    | 45    | 456    | 60    | 516    |
| 18 | 石川  | 83    | 4   | 130   | 8   | 314    | 69    | 527    | 81    | 608    |
| 19 | 福井  | 37    | 1   | 78    | 3   | 255    | 42    | 370    | 46    | 416    |
| 20 | 長野  | 118   | 0   | 119   | 7   | 501    | 108   | 738    | 115   | 853    |
| 21 | 静岡  | 192   | 6   | 249   | 34  | 539    | 150   | 980    | 190   | 1,170  |
| 22 | 愛知  | 110   | 4   | 160   | 11  | 603    | 179   | 873    | 194   | 1,067  |
| 23 | 岐阜  | 60    | 3   | 142   | 13  | 300    | 68    | 502    | 84    | 586    |
| 24 | 三重  | 39    | 0   | 95    | 10  | 304    | 94    | 438    | 104   | 542    |
| 25 | 滋賀  | 77    | 1   | 223   | 21  | 300    | 112   | 600    | 134   | 734    |
| 26 | 京都  | 106   | 5   | 178   | 16  | 674    | 247   | 958    | 268   | 1,226  |
| 27 | 大阪  | 147   | 5   | 337   | 63  | 672    | 226   | 1,156  | 294   | 1,450  |
| 28 | 兵庫  | 82    | 2   | 279   | 15  | 641    | 92    | 1,002  | 109   | 1,111  |
| 29 | 奈良  | 5     | 0   | 59    | 5   | 218    | 68    | 282    | 73    | 355    |
| 30 | 和歌山 | 22    | 0   | 113   | 9   | 302    | 96    | 437    | 105   | 542    |
| 31 | 鳥取  | 50    | 2   | 129   | 16  | 76     | 16    | 255    | 34    | 289    |
| 32 | 島根  | 69    | 4   | 147   | 23  | 434    | 84    | 650    | 111   | 761    |
| 33 | 岡山  | 55    | 3   | 232   | 41  | 234    | 94    | 521    | 138   | 659    |
| 34 | 広島  | 161   | 7   | 236   | 26  | 457    | 112   | 854    | 145   | 999    |
| 35 | 山口  | 107   | 2   | 166   | 20  | 334    | 56    | 607    | 78    | 685    |
| 36 | 徳島  | 19    | 2   | 78    | 8   | 133    | 63    | 230    | 73    | 303    |
| 37 | 香川  | 27    | 0   | 136   | 7   | 141    | 58    | 304    | 65    | 369    |
| 38 | 愛媛  | 45    | 2   | 136   | 9   | 270    | 90    | 451    | 101   | 552    |
| 39 | 高知  | 34    | 1   | 101   | 14  | 118    | 47    | 253    | 62    | 315    |
| 40 | 福岡  | 172   | 8   | 283   | 34  | 716    | 235   | 1,171  | 277   | 1,448  |
| 41 | 佐賀  | 59    | 0   | 105   | 14  | 110    | 38    | 274    | 52    | 326    |
| 42 | 長崎  | 47    | 4   | 102   | 5   | 364    | 80    | 513    | 89    | 602    |
| 43 | 熊本  | 83    | 4   | 204   | 26  | 210    | 60    | 497    | 90    | 587    |
| 44 | 大分  | 89    | 2   | 141   | 28  | 307    | 117   | 537    | 147   | 684    |
| 45 | 宮崎  | 35    | 4   | 87    | 11  | 315    | 79    | 437    | 94    | 531    |
| 46 | 鹿児島 | 77    | 2   | 172   | 25  | 478    | 144   | 727    | 171   | 898    |
| 47 | 沖縄  | 55    | 1   | 106   | 11  | 114    | 53    | 275    | 65    | 340    |
|    |     | 4,241 | 161 | 7,976 | 904 | 18,419 | 4,659 | 30,636 | 5,724 | 36,360 |

# 大会観戦ガイド

## 第70回国民体育大会陸上競技会

秋のスポーツの祭典・国体を和歌山・紀三井寺公園陸上競技場で開催します！各都道府県を代表する中学生から一般選手までの活躍を応援して下さい！

▼期日：10月2日（金）～10月6日（火）

▼会場：紀三井寺公園陸上競技場  
和歌山県和歌山市市毛見200番地

▼アクセス：

JR和歌山駅 1番バスのりばより40、42、43系統 競技場前下車  
2番バスのりばより20、121系統 競技場前下車  
南海和歌山市駅 8番バスのりばより40、42系統 競技場前下車  
9番バスのりばより16、116、17、117系統 競技場前下車  
JR紀三井寺駅より無料シャトルバス運行

▼種目：

【成年男子】100m、400m、800m、110mH、400mH、10000m  
競歩、走高跳、棒高跳、走幅跳、砲丸投、やり投

【少年男子A】100m、400m、5000m、400mH、棒高跳、  
走幅跳、ハンマー投、やり投

【少年男子B】100m、3000m、110mH、走幅跳、砲丸投

【少年男子共通】800m、5000m競歩、走高跳、三段跳、円  
盤投

【成年少年男子共通】4×100mリレー

【成年女子】100m、400m、1500m、5000m、

100mH、10000m競歩、走高跳、走幅跳、

ハンマー投、やり投

【少年女子A】100m、400m、3000m、400mH、走幅跳、  
ハンマー投

【少年女子B】100m、1500m、100mH、走幅跳

【少年女子共通】800m、棒高跳、砲丸投、やり投

【成年少年女子共通】4×100mリレー

▼テレビ放映予定

NHK Eテレ

10月3日（土）16：00～17：00

10月4日（日）16：00～17：00

▼問い合わせ先：

紀の国わかやま国体・紀の国わかやま大会  
和歌山市実行委員会事務局

TEL：073-433-6790 FAX：073-433-6777

大会ホームページ

<http://www.wakayama2015.jp/kokutai/>

## JOCジュニアオリンピックカップ 日本ジュニア・ユース陸上競技選手権大会 第31回日本ジュニア陸上競技選手権大会 第9回日本ユース陸上競技選手権大会

日本ジュニア・ユース選手権を愛知・瑞穂公園陸上競技場  
で開催します！若きアスリート達の熱戦を是非、会場で！

▼日時：10月16日（金）～18日（日）

▼場所：瑞穂公園陸上競技場

愛知県名古屋市長瑞穂区山下通5-1

▼アクセス：

地下鉄桜通線「瑞穂運動場西」駅下車徒歩10分

地下鉄名城線「瑞穂運動場東」駅下車徒歩5分

▼種目：

【ジュニアの部】

＜男子 14種目＞

100m、200m、400m、800m、110mH、400mH、走高跳、棒  
高跳、走幅跳、三段跳、砲丸投、円盤投、ハンマー投、やり投

＜女子 14種目＞

100m、200m、400m、800m、100mH、400mH、走高跳、棒  
高跳、走幅跳、三段跳、砲丸投、円盤投、ハンマー投、やり投

【ユースの部】

＜男子 15種目＞

100m、200m、400m、800m、110mH、400mH、走高跳、  
棒高跳、走幅跳、三段跳、砲丸投、円盤投、ハンマー投、  
やり投、4×100mリレー

＜女子 15種目＞

100m、200m、400m、800m、100mH、400mH、走高跳、  
棒高跳、走幅跳、三段跳、砲丸投、円盤投、ハンマー投、



昨年度の成年男子100m決勝より



昨年度の大会より（ジュニア男子110mH決勝）

やり投、4×100mリレー

▼テレビ放映予定 東海テレビ放送予定

▼問い合わせ先:

一般財団法人愛知陸上競技協会

TEL: 052-249-4363 FAX: 052-249-4366

<http://www.jaaf.or.jp/taikai/1284/>

## 第46回ジュニアオリンピック 陸上競技大会

中学生アスリートの夢の舞台、ジュニアオリンピック！  
リレー日本一を決定する日本選手権リレーも同時開催！ぜひ  
日産スタジアムに足を運んで下さい！

▼日時：10月23日（金）～10月25日（日）

▼場所：日産スタジアム

神奈川県横浜市港北区小机町3300

▼アクセス：JR「新横浜」駅から徒歩14分、  
地下鉄「新横浜」駅から徒歩12分、  
JR「小机」駅から徒歩7分

▼種目

<男子>

区分A：100m、200m、3000m、110mJH、走高跳、砲丸投

区分B：100m、1500m、110mH、走幅跳、砲丸投

区分C：100m、1500m、走幅跳

区分A・B・C共通：円盤投、ジャベリックスロー、4×  
100mリレー

<女子>

区分A：100m、200m、3000m、100mYH、走高跳、砲丸投

区分B：100m、1500m、100mH、走幅跳、砲丸投

区分C：100m、800m、走幅跳

区分A・B・C共通：円盤投、ジャベリックスロー、4×  
100mリレー

\*年齢区分：2015年4月1日を基準として満年齢によって、  
下記のとおり3区分する

A. 14歳以上～15歳未満（2000（平成12）年4月2日生  
～2001（平成13）年4月1日生）

B. 13歳以上～14歳未満（2001（平成13）年4月2日生  
～2002（平成14）年4月1日生）

C. 12歳以上～13歳未満（2002（平成14）年4月2日生



昨年度の大会より（女子ABC共通4×100mR決勝）

～2003（平成15）年4月1日生）

▼入場料：1,000円（1日）

※65歳以上・高校生以下無料

※当日券のみ

▼問合せ先：神奈川陸上競技協会

TEL: 045-210-9660 / FAX: 045-210-9667

▼大会公式ページ

ジュニアオリンピック

<http://www.jaaf.or.jp/taikai/1286/>

## 第99回日本陸上競技選手権 リレー競技大会

リレー日本一を決定する日本選手権リレー！  
ジュニアオリンピックも同時開催！ぜひ日産スタジアム  
に足を運んで下さい！

▼日時：10月23日（金）～10月25日（日）

▼場所：日産スタジアム

神奈川県横浜市港北区小机町3300

▼アクセス：JR「新横浜」駅から徒歩14分、  
地下鉄「新横浜」駅から徒歩12分、  
JR「小机」駅から徒歩7分

▼種目

【日本選手権リレー】

<男子 2種目>

4×100mリレー、4×400mリレー

<女子 2種目>

4×100mリレー、4×400mリレー

▼入場料：1,000円（1日）

※65歳以上・高校生以下無料

※当日券のみ

▼問合せ先：神奈川陸上競技協会

TEL: 045-210-9660 / FAX: 045-210-9667

▼大会公式ページ

日本選手権リレー

<http://www.jaaf.or.jp/taikai/1285/>



昨年度の大会より（男子4×100mR決勝）

## JAAF SHIGA 一般財団法人滋賀陸上競技協会

〒520-0037 大津市御陵町4-1 皇子山陸上競技場内2-1室  
TEL.077-527-3925 FAX.077-527-3925  
http://www.biwako.ne.jp/~srkshiga/

### 平成27・28年度一般財団法人滋賀陸上競技協会新役員体制スタート

本協会では、平成27年6月7日(日)、理事会、評議員会を開催し、平成27・28年度新役員体制でスタートいたしました。9年後の滋賀での国体を念頭に置き、強化・普及元年と位置づけ、2巡目国体総合優勝を狙っての布陣となりました。

#### 理事会

会長 奥村展三(再任)  
副会長 井上彌彦(再任)、野村昌弘(再任)、辻ひとみ(新任)  
専務理事 坂一郎(再任)  
常務理事 馬場豊(再任)

新理事は以下の通りです。

磯田英清、小野清司、北村統、近藤高代、島孝志、村上拓  
評議員  
今井高美、海老久美子、小椋正清、岸野洋、佐藤尚武  
高橋祥二郎、田中健之、細見昌朗、森美和子  
佐藤国治(新)、藤森秀夫(新)

## JAAF KYOTO 一般財団法人京都陸上競技協会

〒615-0872 京都市右京区西京極南衣手町57番2  
TEL.075-322-5500 FAX.075-322-5501  
http://www.krk26.jp/

9月23日開催の京都マスターズ秋季記録会は「宮崎秀吉世界記録挑戦会」と銘打って行われます。前日の22日に105歳の誕生日を迎えた宮崎秀吉さんが前人未到の記録に挑戦します。「世界最高齢競技者」としてギネスブックに登録されている宮崎秀吉さんの走りに注目したいものです。

12月20日に開催される男子第66回・女子第27回全国高等学校駅伝競走大会は、都大路にコースを移して50回目の大会となります。47都道府県代表と11地区代表、開催地京都府は府予選会の準優勝校を加え2校が代表校となり、出場校は男女各59チームとなります。年末の都大路は、例年以上の盛り上がりを見せてくれることでしょう。

来年の2月21日に開催される京都マラソン2016の準備が進行しています。8月末にランナー募集は終了し、抽選結果通知は10月6日を予定しています。第5回大会記念企画として、仙台国際ハーフマラソン大会との連携を図ることボランティア経験者枠を設けることとしました。コースに大きな変更はありませんが、北山通のコース幅を広げてより走りやすいコースとなりました。平安神宮をバックにしてのフィニッシュもこれまでと同じです。フィニッシュ地点の走路が歩行者専用道路に生まれ変わりますので、昨年とは異なった印象を持たれるのではないのでしょうか。回を重ねるごとに充実をしてくれている京都マラソンにご期待ください。

(文責:広報部長 相模浩史)

## JAAF OSAKA 一般財団人大阪陸上競技協会

〒546-0034 大阪市東住吉区長居公園1-1  
ヤンマースタジアム長居内  
TEL.06-6697-8899 FAX.06-6697-8766  
http://www.oaaa.jp/

### 2020東京へ 大阪陸協特別強化プロジェクト「OSAKA2020夢プログラム」始動!

今年から5ケ年間、2020東京オリンピックへ向けた大阪陸協の独自プロジェクト「OSAKA2020夢プログラム」がスタートします。本プログラムは、今後の世界陸上、オリンピック等のステージに臨む選手の強化・育成の課題を盛り込んだジュニアアスリートを中心とした大阪陸協創設以来の一大強化プロジェクトであり、8月の理事会の正式承認を経て開始しました。従前の強化委員会プログラムとは別組織としてゼネラルマネージャー室を10月からヤンマースタジアム長居に設置する予定です。各指定強化選手の所属学校やクラブ、日本陸連や実業団チームとも連携するとともに、海外での経験を増やしていくなど国際的な強化策も盛り込んでおります。詳細は、プログラムの進展に応じて陸連時報でもご紹介していきたいと思っております。

### 第3回全国高等学校陸上競技選抜大会を開催(ヤンマーフィールド長居)

インターハイで実施されていない種目を中心に第3回全国高校陸上選抜大会が8月29日、30日の2日間ヤンマーフィールド長居で開催され女子棒高跳、三段跳、ハンマー投の他300m、300mH、2000mSC、3000mW、八種競技、七種競技が行われました。異常な高温が続いた大阪もお盆を過ぎてから朝夕の気温が和らぎ、北京世界陸上の終盤戦と重なる日程でしたがTBSテレビ中継の世界の選手が活躍する映像の影響を受け、来年のリオオリンピック、2020東京オリンピックにつながる活躍が見られました。

(文責:常務理事 讃岐 富男)

## JAAF HYOGO 一般財団法人兵庫陸上競技協会

〒651-0076 神戸市中央区吾妻通4丁目1番6号  
神戸市生涯学習支援センター内  
TEL.078-231-1771 FAX.078-231-1772  
http://www.haaa.jp/index2.html

今夏の異常気象で被害に遭われた方々には、心よりお見舞い申し上げます。

7月の兵庫陸上競技選手権大会、8月の全国高等学校総合体育大会・全日本中学校陸上競技選手権大会、近畿陸上競技選手権大会も終わり、選手たちは秋の競技会・駅伝に向けた練習に励んでいることと思います。強化委員会の活動としては、和歌山国民体育大会のための強化指定選手合宿を石川県の西部緑地公園陸上競技場で計画しています。質の高い練習を行い、本番で力を十分に発揮させたいと考えています。

アジアユース陸上競技選手権大会では池川博史選手・田中希実選手、世界ユース陸上競技選手権大会では矢来舞香選手、アジア陸上競技選手権大会では小西勇太選手(400mH優勝)・宇都宮絵莉選手など、本県にゆかりのある選手が素晴らしい活躍をしました。小西勇太選手、藤原正和選手の第15回世界陸上競技選手権大会での健闘を祈念して、兵庫陸上競技選手権大会2日目にユニバー記念競技場で壮行会を行いました。

さて、兵庫陸協は一般財団法人化して3期目となりました。今年から2年間、近畿陸上競技会事務局として近畿選手権の運営にも携わります。定款及び内規は、定款委員会において実質的な見直しをしています。具体的には、各競技会の役員数とその旅費、競技役員統一服装、大会参加料・プログラム代などの見直しをしました。兵庫陸上競技選手権を2日開催に変更した結果、大幅な経費削減ができました。

第5回神戸マラソンを11月15日(日)に開催します。「世界一ランナーのよい大会」を目指しています。抽選の結果、フルマラソン・クォーターマラソン合わせて2万人を選出しました。参加者が快適に走れるよう準備しているところです。

(文責:総務委員長 宮永 正俊)





事務局からのお知らせ

◆◆twitterを始めました◆◆

日本陸連では6月より公式Twitterを始めました。  
各種大会や代表選手の情報、普及育成事業などさまざまな情  
報を発信していきます。  
是非下記にアクセスして、フォローしてください！  
[https://twitter.com/jaaf\\_official](https://twitter.com/jaaf_official)



◆◆ロードレースシーズンが始まります！◆◆

11月から、冬のロードレースシーズンが始まります！  
日本陸上競技連盟主催の競技会は、来夏の第31回オリンピック競技大会（2016 / リオデジャネイロ）の代表選手選考競技会とな  
っている6競技会。

- 各競技会の詳細な情報は大会ウェブサイトにて。
- ・第1回さいたま国際マラソン大会 2015年11月15日（日）開催  
<http://saitama-international-marathon.jp/>
  - ・第69回福岡国際マラソン選手権大会 2015年12月6日（日）開催  
<http://www.fukuoka-marathon.com/>
  - ・第35回大阪国際女子マラソン大会 2016年1月31日（日）開催  
<http://www.osaka-marathon.jp/>
  - ・東京マラソン2016 2016年2月28日（日）開催  
<http://www.tokyo42195.org/2016/>
  - ・第71回びわ湖毎日マラソン大会 2016年3月6日（日）開催  
<http://www.lakebiwa-marathon.com/>
  - ・名古屋ウィメンズマラソン2016 2015年3月13日（日）開催  
<http://womens.marathon-festival.com/>

◆◆安藤財団グローバルチャレンジプロジェクト 短期活動支援募集中◆◆

詳しくは本号223ページをご覧ください。

陸連時報編集委員

◇編集委員

- 横川 浩（陸連会長）
- 友永 義治（陸連副会長）
- 八木 雅夫（陸連副会長）
- 尾縣 貢（陸連専務理事）
- 原田 康弘（陸連強化委員長）
- 風間 明（陸連事務局長）
- 牧野 豊（陸上競技マガジン編集長）

◇時報編集室責任者

- 大嶋 康弘
- ◇時報編集担当
- 繁田 進
- 石塚 浩
- 木越 清信
- 宮田 宏
- 高橋 祐哉
- 小川ちあき

陸連時報編集室

〒163-0717  
東京都新宿区西新宿2-7-1  
小田急第一生命ビル17階  
公益財団法人日本陸上競技連盟 内  
TEL 03-5321-6580  
FAX 03-5321-6591  
WEBサイト <http://www.jaaf.or.jp/>  
公式動画サイト <http://japanathletics.tv/>